



それぞれの地域の在宅医療の長所短所について話をされてきました。そこで上がった印象深い課題としては、急性期病院スタッフの在宅医療に対する理解不足があり、緩和医療のステーションに

私の友人が勤務しているの最期に立ち会って本病院の患者さんが、先当に良かった」と医師と日、私のもとに紹介された一つの充足感があつたようでした。

医師に求められる「在宅医療」への理解

先日、勇美記念財団主催の「在宅医療推進フォーラム」に参加しました。これは私も痛感していましたが、先日、この隙間を埋めるエピソード

市長や医師会長が出席し、まず、

たまたまその夜は執刀した友人が当院の当番になっていて、彼が患者さんの最期を看取りました。そこで彼はご家族から大変感謝され、「医者人生20年で初めて、家で患者さ

れました。

かと思いません。



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
■定休日 : 土日 (祝日は診療)
■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック

検索